

# KANSAI ウォーク2023

奈良公園 登大路園地から  
空海、徳川家康ゆかりの  
地を歩くコース

## 第2回大会 奈良エリア

- スペシャルコース (約12km)
- ファミリーコース (約8km)

コース監修：北川央 (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

大会途中で棄権したり、  
救護を要する時は…



大会本部 (Central Site)  
救護 (First Aid)

TEL 080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です

コース上の寺院・神社へおまいりされない方は、境内に入らず前をお通りください



### スペシャルコース (約12km)

1 奈良公園 登大路園地 → 2 興福寺国宝館 → 3 興福寺中金堂 → 4 興福寺東金堂 → 5 興福寺五重塔 (工事中) → 6 興福寺南円堂 → 7 興福寺北円堂 → 8 猿沢池 → 9 開化天皇陵 → 10 漢國神社 → 11 山の寺念仏寺 → 12 大仏鉄道記念公園 → 13 聖武天皇陵 → 14 光明皇后陵 → 15 多間城跡 (若草中学校) → 16 大仏鉄道黒髪山トンネル跡地 → 17 元正天皇陵 → 18 元明天皇陵 → 19 般若寺 → 20 北山十八間戸 → 21 五劫院 → 22 空海寺 → 23 正倉院 → 24 東大寺講堂跡 → 25 東大寺二月堂 → 26 東大寺三月堂 → 27 手向山八幡宮 → 28 東大寺中門・大仏殿 → 29 東大寺ミュージアム → 30 東大寺真言院 → 31 東大寺戒壇院 → 32 入江泰吉旧居 → 33 依水園 → 1 奈良公園 登大路園地

### ファミリーコース (約8km)

1 奈良公園 登大路園地 → 2 興福寺国宝館 → 3 興福寺中金堂 → 4 興福寺東金堂 → 5 興福寺五重塔 (工事中) → 6 興福寺南円堂 → 7 興福寺北円堂 → 8 猿沢池 → 9 開化天皇陵 → 10 漢國神社 → 11 山の寺念仏寺 → 12 大仏鉄道記念公園 → 13 聖武天皇陵 → 14 光明皇后陵 → 15 多間城跡 (若草中学校) → 21 五劫院 → 22 空海寺 → 23 正倉院 → 24 東大寺講堂跡 → 25 東大寺二月堂 → 26 東大寺三月堂 → 27 手向山八幡宮 → 28 東大寺中門・大仏殿 → 29 東大寺ミュージアム → 30 東大寺真言院 → 31 東大寺戒壇院 → 32 入江泰吉旧居 → 33 依水園 → 1 奈良公園 登大路園地

## 1. 奈良公園 登大路園地



近鉄奈良駅のすぐ近くにある奈良公園の玄関口。奈良県庁の前に広がる芝生広場にはたくさんの鹿の群れ遊ぶ姿が見られ、奈良へ来た観光客が真っ先に「奈良」を感じるスポットでもある。奈良公園は明治13年(1880)2月14日の開設。広さ660haの広大な面積があり、東大寺、興福寺、春日大社、正倉院、奈良国立博物館などが隣接する。

## 2. 興福寺国宝館

興福寺は法相宗の大本山で、その前身は藤原鎌足夫人の鏡女王が夫鎌足の病氣快復を祈願して創建した「山階寺(やまのき)」。当初は山階(やまのき)園山階(現在の京都市山科区)に創建されたが、都が大津京から飛鳥浄御原(きよみやはら)宮に遷されたことから飛鳥に移った。平城京遷都により現在の寺地に移り、藤原氏の氏寺として栄えた。国宝館は、興福寺の僧侶が食事をする食堂(じきどう)があった場所に、昭和34年(1959)に建てられた鉄筋コンクリート造りの耐火式宝物収蔵庫。平成29年(2017)には耐震改修が行われた。館内には、旧食堂の本尊千手観音菩薩像を中心に、阿修羅像をはじめとする八部衆立像、十大弟子立像。鎌倉時代の天燈鬼立像・龍燈鬼立像・金剛力士像、旧山田寺の仏頭など、多くの国宝・重要文化財を収蔵・展示する。拝観：有料

## 3. 興福寺中金堂



中金堂は興福寺伽藍の中心になる最も重要な建物で、藤原不比等(ふひと)が創建し、和銅7年(714)に完成したと伝えられる。平安時代以降7度も焼失、再建を繰り返し、文政2年(1819)に「仮堂」を再建。平成12年(2000)にこの「仮堂」を解体し、発掘調査を経て、平成30年(2018)に現在の中金堂の再建落慶法要が行われた。拝観：有料

## 4. 興福寺東金堂



中金堂の東側にある金堂で、興福寺にあった三つの金堂の一つ。神亀3年(726)聖武天皇が叔母の元正太上天皇の病氣全快を願って建立した。創建当初は床や須弥壇などに緑色のタイル(緑軸埴/りよくゆうせん)が敷き詰められ、薬師如来の東方琉璃光浄土(とうりゅうこうじょう)の世界が表されていたといわれる。その後5度の被災・再建を繰り返し、現在の建物は室町時代の応永22年(1415)に再建されたもので、国宝に指定されている。前面を吹き放しとした寄棟造で、組物である三手先斗拱(みつてきさきとぎょう)が多用されるなど、創建当初の奈良時代の雰囲気の色濃く伝えている。拝観：有料

## 5. 興福寺五重塔(工事中)



古都奈良を代表する建物。塔は釈迦の舍利(遺骨)をおさめる墓標。興福寺を創建した藤原不比等の娘である光明皇后の発願で、天平2年(730)に建立された。その後5回の焼失・再建を経て、現在の塔は応永33年(1426)頃に再建された。国宝に指定される。創建当初の高さは約45mで、当時日本で最も高い塔だった(現在は京都・東寺の五重塔に次いで2番目)。初層の須弥壇四方には薬師三尊像、釈迦三尊像、阿彌陀三尊像、弥勒三尊像(いずれも室町時代の作)が安置されている。

## 6. 興福寺南円堂

弘仁4年(813)に藤原冬嗣が父内麻呂追善のために創建。建造の際の地鎮と基壇造営には弘法大師空海が行ったと伝えられる。西国三十三所観音霊場の第九番札所で、多くの人々が参拝する。現在の建物は創建以来4度目のもので、寛保元年(1741)に立柱、寛政元年(1789)に再建された。重要文化財に指定される。内陣には本尊の不空羂索(ふくくげんさく)観音菩薩坐像を中心に、四天王立像、法相六祖坐像が安置されている。

## 7. 興福寺北円堂



興福寺に残る最も古い建物で、国宝の指定を受ける。興福寺を創建した藤原不比等の一周忌にあたる養老5年(721)8月に元明・元正天皇が、長屋王に命じて建立した。治承4年(1180)、平重衡の南都焼き討ちにより焼失。承元4年(1210)頃に再建された。華麗で力強く、組物に三手先斗拱(みつてきさきとぎょう)が使われるなど、創建当初の姿をよく残している。室内には本尊である弥勒如来坐像を中心に、無著(むじやく)・世親(せしん)菩薩立像や四天王立像などが安置されている。

## 8. 猿沢池



興福寺の放生池(ほうじょうち)。水面に興福寺五重塔が映る様子は奈良を代表する景観の一つ。わずか360mの周囲には柳が植えられており、たいへん風情がある。甲羅干しをする亀の名所としても知られる。俗謡に「澄まらず濁らず、出ず入らず、蛙わかず藻が生えず、魚七分に水三分」の七不思議がある。奈良時代、帝の寵愛が衰えたことに悲嘆した采女が身投げをしたとの言い伝えもあり、池の畔にはこの采女を祭神とする采女神社が鎮座する。

## 9. 開化天皇陵



第9代開化天皇の御陵「春日率川上陵」。奈良市の中心部、三条通と油阪通の間にある。墳丘長約100メートルの前方後円墳。江戸時代には隣接する「山の寺」念仏寺の墓地となり、墳丘が削られたが、幕末の文久年間(1861～1864)に墓地を移転し、御陵の修復が行われた。

## 10. 漢國神社(かごくにんじや)



推古天皇元年(593)創建と伝える古社。藤原氏に崇敬された。本殿は三間社流造。社宝に徳川家康奉納の鎧「茶糸威胴丸具足(ちやいとどまるとまるぐそく)」があり、現在は奈良国立博物館に寄託されている。慶長19年(1614)大坂冬の陣の際、京都・二条城を出陣した徳川家康は奈良を経て大坂に向かったが、途中で戦勝を祈願して奉納したと伝えられる。境内には日本唯一の饅頭の社「林神社」がある。室町時代に中国から渡来して、饅頭の製法を伝えた林淨因が祀られている。毎年4月19日の饅頭まつりには全国の菓子業者が集まり、饅頭が振る舞われる。

## 11. 山の寺 念仏寺



近鉄奈良駅とJR奈良駅を結ぶ大宮通から少し南に入ったところにある浄土宗寺院で、「山の寺」と通称される。琉球での布教に尽力し、「エイサー」の祖ともいわれる袋中(たいちゅう)上人が元和8年(1622)に、徳川家康の異父弟・松平定勝を大増越として開創した。境内には袋中上人や松平定勝の墓、幕末に外国奉行・奈良奉行を務めた桑山元柔の墓などがある。慶長19年(1614)大坂冬の陣の際、京都・二条城から奈良に向かう途中、山城国木津で真田幸村隊の襲撃を受けた徳川家康は、命からがら奈良まで逃げ、この念仏寺の境内にあった桶屋の檜に身を隠して難を逃れたと伝えられる。

## 12. 大仏鉄道記念公園



「大仏鉄道」とは関西(かんさい)鉄道の路線で、明治31年(1898)に加茂駅と大仏駅間に開業。翌年に奈良駅(現在のJR奈良駅)まで延伸した。全線9.9キロ。大仏駅は東大寺大仏殿の最寄駅として賑わった。きつい勾配や多くのトンネル、橋梁があり、当時の機関車では運行が困難であったため、わずか9年で廃線。大仏鉄道記念公園は、平成4年(1992)大仏駅跡に、地元自治会などの協力で作られた。園内は桜の名所としても知られる。

## 13. 聖武天皇陵



第45代聖武天皇(在位724～749年)の御陵「佐保山南陵」。聖武天皇の治世は、災害や疫病が頻発し、長屋王の変、藤原阿曇の乱も起こるなど、世情が不安定で、国家の安寧を願った天皇は深く仏教に帰依して、諸国に国分寺・国分尼寺を建立。都の奈良には総国分寺として東大寺を創建し、大仏を造立した。平城京から恭仁京、紫香楽宮、難波宮と、次々と遷都も行った。聖武天皇は自らを「三宝の奴」と称して出家し、天平勝宝元年(749)娘の阿倍内親王(孝謙天皇)に譲位し、太上天皇(上皇)となった。聖武天皇の遺品は、その死後、七七忌(四十九日)に際し、光明皇后によって東大寺に献納され、その一部が今も正倉院宝物に現存する

## 14. 光明皇后陵



第45代聖武天皇の皇后・光明皇后の御陵「佐保山東陵」。光明皇后は、藤原不比等の娘として大宝元年(701)に生まれた。母は泉大鏡養母三千代(あがたいみけのちちほのむち)。霊亀2年(716)に首(むびと)皇子(のちの聖武天皇)の妃となった。神亀4年(727)に基王(もとのおう)を生んだが、翌年病気で亡くなり、以降、深く仏教に帰依した。天平2年(730)施薬院を置き、貧しい病人に薬草を施し、困窮者や孤児救済のため悲田院も設置。天平宝字4年(760)に亡くなった。

## 15. 多聞城跡(若草中学校)

永禄2年(1559)から翌年にかけて、松永久秀によって眉間寺山に築かれた。東西約100メートル、南北約100メートルの規模と推定される。眉間寺山はのち「多聞山」と呼ばれ、眼下に東大寺や興福寺を望み、奈良と京都を結ぶ街道をおさえる要所に位置した。松永久秀は三好良俊、ついで織田信長に仕えて大和の支配を認められたが、天正5年(1577)に信長に反旗を翻し、信貴山城で敗死した。多聞城の跡地は奈良市立若草中学校となっており、土塁跡がわずかに残る。各地の城郭に建てられた「多聞櫓」と呼ばれる様式の櫓は、久秀がこの城で初めて採用したため、その名がある。

## 16. 大仏鉄道黒髪山トンネル跡地



明治31年(1898)からわずか9年で廃線となった大仏鉄道の遺構のひとつ。奈良ドリームランド跡地やその北側の丘陵は古来、「黒髪山」と呼ばれてきた。そこに掘られた「黒髪山トンネル」は、長さ86メートルの同鉄道のトンネルで、昭和41年(1966)頃まで残っていた。道路拡張により取り壊され、現在の姿となった。黒髪橋からは遠く大仏殿が望める。近くには、鹿川隧道や松谷川隧道などの遺構もある。

## 17. 元正天皇陵(げんしょうてんのうりょう)



第44代元正天皇(在位715～724年)の御陵「奈保山西陵」。元正天皇は奈良時代の女帝で、父は天武天皇と持統天皇の子・草壁皇子。母は元明天皇。在位中に養老律令を完成させた。在位9年で、甥の聖武天皇に譲位した。

## 18. 元明天皇陵



第43代元明天皇(在位707～715年)の御陵「奈保山東陵」。元明天皇は天智天皇の第四皇女で、母は蘇我倉山石田石川麻呂の娘。草壁皇子の妃で、文武天皇・元正天皇を生んだ。文武天皇の没後に即位。和銅3年(710)に平城京へ遷都を行い、和同開珎を鑄造、『古事記』『風土記』の編纂を行った。

## 19. 般若寺



般若寺は飛鳥時代、高句麗の慧曇法師によって創建され、聖武天皇の時代、天平7年(735)に平城京の鬼門鎮護のため堂塔が整備されたと伝えられる。京都と奈良を結ぶ路沿いに位置することから、治承4年(1180)平重衡の南都焼き討ちにより被災。西大寺の叡尊・忍性によって再興された。鎌倉時代の優美な建築様式をもつ楼門(国宝)、楼門の奥正面に立つ十三重石塔(重文)などが残る。拝観：有料

## 20. 北山十八間戸(きたやまじゅうはちけんこ)



我が国の慈善救済事業の先駆けを示した遺跡として、大正10年(1921)に国の史跡に指定された。

## 21. 五劫院(ごこういん)



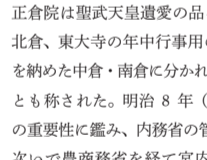
五劫院は東大寺末の華嚴宗の寺院で、東大寺の大仏・大仏殿を再建したことで知られる俊傑房(しゅんげつぼう)重源(ちゅうげん)が、宋から請来した五劫思惟弥勒仏坐像を安置したのが始まりと伝えられる。現在の本尊は鎌倉時代の五劫思惟弥勒仏坐像で、もろもろの衆生を救おうと、長い間修行を続けたため、髪が伸びて螺髪がうずたかく重なる姿で表される。独特の造形で、国の重要文化財に指定されている。

## 22. 空海寺



平安時代初期に東大寺の別当に就任した弘法大師空海が開基した。東大寺の末寺で、華嚴宗の寺院。華嚴宗・真言宗の二宗を受け継いでいる。本尊は、空海が自ら彫刻したと伝える秘仏「阿那地蔵尊」。境内には東大寺歴代の僧侶・寺族の墓がある。

## 23. 正倉院



正倉院は聖武天皇遺愛の品々を納めた北倉、東大寺の年中行事用の仏具などを納めた中倉・南倉に分かれ、「三ツ倉」とも称された。明治8年(1875)宝物の重要性に鑑み、内務省の管轄となり、次いで農商務省を経て宮内省に移り、現在は宮内省の管轄となっている。毎年秋に奈良国立博物館で宝物の一部を展覧する「正倉院展」が開催される。

## 24. 東大寺講堂跡



東大寺講堂はかつて大仏殿の裏手にあり、現在は広大な芝生広場となっている。講堂は、経典の講義や説法が行われる重要な建物で、たくさんの僧侶がここで勉強に励んだ。天平の創建以来、講堂は三度にわたる火災で焼失し、戦国時代以降は再建されず、今は礎石だけが残っている。

## 25. 東大寺二月堂



大仏殿の東方にあり、8世紀後期の成立と考えられている。「二月堂」の名は、旧暦2月にこのお堂で修二会(しゅにえ、お水取り)が行なわれることに由来する。現在の堂は、寛文9年(1669)に再建された正面7間、奥行10間に及ぶ大建築で、創建当初の建物は小規模のものであったらしく、時代を経るにつれ、修二会の行法に合わせて増築された。国宝。

## 26. 東大寺三月堂



正式名称は「法華堂」。旧暦3月に「法華会(けわえ)」が営まれたことから「三月堂」と呼ばれるようになった。三月堂は東大寺最古の建造物で、天平5年(733)から天平19年までの創建と考えられている。国宝。室内には本尊の不空羂索観音像を中心に合計10体の奈良時代の仏像が立ち並び、いずれも国宝。拝観：有料

## 27. 手向山八幡宮(たむけやまはちまんぐう)



天平勝宝元年(749)東大寺大仏建立のため、九州の豊前国(大分県)宇佐八幡宮より東大寺守護の神として迎えられ、社殿が創建された。明治4年(1871)の神仏分離により東大寺から独立した。国宝・重要文化財に指定される多くの社宝が伝来する。毎年2月の部分に行われる御田植祭は奈良市の無形民俗文化財に指定されている。

## 28. 東大寺中門・大仏殿



中門は大仏殿の正面に位置する楼門で、重要文化財に指定される。東西にそれぞれ兜跋(とばつ)毘沙門天と持国天が祀られる。大仏殿は東大寺の金堂で、世界最大級の木造建築。国宝。本尊の大仏は正しくは「盧舎那(るしゃな)仏」もしくは「毘盧遮那(びるしゃな)仏」といい、国宝。華嚴経の中心的存在で、全宇宙を照らす仏とされる。大仏殿拝観：有料

## 29. 東大寺ミュージアム



東大寺ミュージアムは、東大寺に伝来する多くの文化財を保管・公開することを目的に平成23年(2011)10月に開館した。「東大寺の歴史と美術」をテーマとして、常設展示および特集展示などを行っており、ミュージアムの本尊である千手観音菩薩像のほか、法華堂(三月堂)伝来の日光・月光菩薩像、奈良時代の誕生釈迦像や大仏開眼供養に用いられた伎楽面など、多くの寺宝を見ることができる。拝観：有料

## 30. 東大寺真言院



東大寺戒壇院で受戒して唐に渡った空海は、帰朝後、真言宗を興し、高野山・金剛峯寺や京都・東寺の造営に携わった。弘仁元年(810)東大寺の第14代別当を務め、真言院の前身ともいえる灌頂道場を創建した。今も東大寺で毎日あげられる経の中には、密教経典の一つである「理趣経」もあり、空海のもたらした教えは現代にも受け継がれている。

## 31. 東大寺戒壇院



唐僧鑑真和尚が天平勝宝6年(754)に來朝して、わが国に初めて正しい戒律を伝えた。その折、聖武太上天皇や孝謙天皇が受戒した大仏殿前の土壇をこの地に遷して戒壇堂を築き、伽藍を造営したのが戒壇院の起り。ここから多くの僧が巣立った。弘法大師空海もここで学び、延暦23年(804)、31歳のときに東大寺戒壇院で具足戒を授けられた。治承4年(1180)の平重衡による南都焼き討ちで焼亡。重源らが復興した鎌倉時代の戒壇院も文安3年(1446)に焼失し、現在の建物は江戸時代に再建されたもので、奈良県指定文化財。室内には国宝に指定される奈良時代の四天王像が安置されている。拝観：有料

## 32. 入江泰吉旧居



入江泰吉は明治38年(1905)奈良市に生まれた。当初は画家を目指したが、断念して大阪市内で写真店を開業。昭和20年(1945)3月の大阪大空襲で自宅兼店舗が全焼したため奈良に戻り、終戦後は奈良大和路の風景、仏像、行事などを撮ることに専念した。平成4年(1992)1月16日、86歳で死去。入江泰吉旧居は、入江が戦後から亡くなるまで暮らした邸宅で、平成12年(2000)妻ミツエが奈良市に寄贈。平成27年(2015)一般公開された。入江泰吉の全作品も奈良市に寄贈され、奈良市高畑町の入江泰吉記念奈良市写真美術館で収蔵・展示されている。入館：有料

## 33. 依水園



依水園は奈良を代表する池泉回遊式庭園で、二つの庭園で構成される。その面積は3400坪(約11,000㎡)にも及ぶ。「前園」は、奈良晒(ならざらし)を扱う御用商人清須美道清が造った江戸時代前期の庭園で、周りに隔絶された静寂な別世界を感じることができる。「後園」は、明治時代の実業家関藤次郎が造った庭園で、若草山や春日奥山、三蓋山(みかさやま)、東大寺南大門などを借景として取り入れた贅沢な空間を演出する。庭園内には、清須美道清が別邸として移築した三秀亭や水心亭・清秀庵・庭軒などの茶室もあり、四季折々の花々を楽しむこともできる。国指定名勝。入園：有料



奈良公園 登大路園地から空海、徳川家康ゆかりの地を歩くコース

【解説面監修】北川川央(九度山・真田ミュージアム名誉館長)

大会途中で棄権したり、救護を要する時は…  
大会本部(Central Site) 救護(First Aid)  
TEL 080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です